



北広島市図書館

北海道日本ハムファイターズが札幌市から北広島市に拠点を移しました。そこで私は混乱したのが施設名です。「エスコンフィールド」「ボールパーク」「F ビレッジ」どれがどう違うのか「F ビレッジ」公式HPで判明しました。

まず北海道日本ハムファイターズと株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメントは、2023年開業予定のボールパークエリア名と呼んでいました。続いて新球場プロジェクト立ち上げ時から使用している「北海道ボールパーク」という名称に複数の意味を持つ頭文字「F」、北海道を象徴する「七光星」、まちづくりを表す「Village (ビレッジ)」を加えることで北海道の新たなデスティネーションにしたいという想いを表現。「F」には「Fighters」の頭文字の他、「Fan」「Future」「Forest」「Fun」「Fusion」など様々な単語の意味が込められているそうです。そして株式会社日本エスコン（本社：東京）が、北海道ボールパーク F ビレッジにおいて展開するまちづくりに参画することが決定。地域に根ざすデベロッパーとして F ビレッジにおける各種事業開発を担っています。パートナーシップの象徴として ESCON と球場ネーミングライツ（命名権）契約締結によって「エスコンフィールド」をいう名称になりました。かなり民間色の強い建て付けですね。

北広島市は人口 56,000 人ほど。札幌市と恵庭市の間に位置し、新千歳空港から快速エアポートライナーに乗車すると必ず通ります。JR 新札幌駅から1つ目の駅が北広島駅なのでとても近いです。

1884（明治 17）年、広島県の実業家和田郁次郎が県人 103 人と共にこの土地に移り込んできたのが始まり。1893（明治 26）年には 1200 人ほどの集落になり、当時道内で米の生産量が一番という記録が残っています。この功績を讃え、北海道庁長官は「和田村」と提案しますが、郁次郎は「皆で開拓したので」と固辞。仲間たちの故郷にちなみ「広島村」と名付け 1968 年町制施行します。1996 年市制施行して「北広島市」と改称されました。平成になってからなのですね。広島県広島市と混乱すること、広島市より北に位置することから「北広島市」となりました。しかし「北広島市」施行前から既に「北広島駅」は開業しており、広島町時代から「きたひろしま」「きたひろ」の地名は根付いていたようです。ちなみに広島県東広島市と北広島市（当時は広島町）は 1980（昭和 55）年姉妹都市として連携を開始します。

北広島市にはもう1つ大きな歴史があります。

W.S.クラーク博士が北海道に訪れたのは 1876 (明治 9) 年。翌年クラーク博士が北海道を離れる際に、見送りにきた学生たちに残した言葉「BOYS BE AMBITIOUS—青年よ大志を抱け」という言葉を述べたのが札幌郡月寒村島松—現在の北広島市です。小説『札幌誕生』門井慶喜著に綴られています。

さてようやく図書館です。1974 年中央公民館図書室の設置が始まり。以降町内各地の公民館に図書室が開設されます。1998 年北広島駅の前に芸術文化ホールが開館。その施設内に図書館も同時開館します。2007 年、窓口等業務委託開始 (委託先: (株)図書館流通センター)、今日に至ります。現在市内 4 箇所に分館を設置しています。蔵書は約 35 万冊。

東広島市との姉妹提携ということで原爆や戦争などの書籍を「平和資料コーナー」として常設しています。カウンターに近い一般書の壁面にぎっしり管理され、道内でこれだけ戦争と平和について展開している図書館を見かけたことはありません。なお『はだしのゲン』はコミックの書架で見かけました。郷土資料コーナーには「昔の観光ガイド」なども所蔵。ファイターズの関連本が少ないのは淋しいです。図書館とファイターズのコラボは特に行っていないようです。北広島市とファイターズとの連携事業は行われています。

当館が素晴らしいのは活動報告を毎年公表していること。当館 HP から閲覧できます。道内でなかなかここまで詳細に事業報告書を公開している図書館は珍しく大変参考になります。

最後に大ヒットコミック『スピナマラダ!』『ゴールデンカムイ』の著者、漫画家の野田サトル氏は北広島市の出身です。

2026 年 1 月訪問
加藤 重男